

福岡市の経験(第1回専門委員会コメント)

福岡市経済振興局理事 進藤千尋

1. 都市づくりのキーワード

'80年代中期までは、“制御機能を持つ西日本の中枢管理都市”

'87年制定の市基本構想で、“活力あるアジアの交流拠点都市”打ち出し

制定当初は、私を含む職員間でも強い違和感(「おこがましい」)

市制百周年記念の「アジア太平洋博覧会 福岡 89」を皮切りに、今日まで国際級大規模イベント誘致、地元主催の各種アジア関連イベント、ハード・ソフトインフラ整備を展開

2. これらの過程を通じ、何が起こったか

民間資本による大規模投資(福岡ド・ム、国際級ホテル、大規模商業施設等々)

都市の魅力向上=九州における福岡一極集中、地方都市から全国でも注目される都市へ
市民・企業の意識変化(アジアへの眼差し、アイデンティティ共有)

3. なぜ一定の成果を収め得たか(経済活力のある都市となった要因)

『先見性』='85年プラザ合意を契機にアジアで起こった『新たな潮流』に、自治体としていち早く着眼

『正統性』=古来、大陸・半島と日本を結ぶ窓口だったという歴史性と近接性

『時代潮流』を背景に、半歩先の『先見性』で『正統性』を主張。その認知が民間投資誘発。目覚めた(博多の)遺伝子、定着した「西」への眼差し、一皮剥けた都市へ

4. 新たな目標、課題

次の目標は、国内外からの人・企業、モノ、資金、情報が行き交う国際ビジネス都市
従来の好循環は、自治体の意思と投資で喚起できたが、ビジネスは市場原理次第
いかにしてグローバルビジネス拠点だと主張しうる「原理」を示せるかが鍵
着眼は「中国」、「自動車関連」、「デジタルコンテンツ・音楽」、「共生人財開発」等
これらを巡る『時代潮流』は、福岡市が資源を活かし、『正統性』を主張できる!

「安」「近」「短」のコンパクトで、都会性と自然が共存した、開放的気風の都市

- ・労働人口減少、無くなることはない衣食住関連製品需要、普及品は海外生産品
- ・日本海&太平洋物流の要の位置、モーダルシフトの西の起点(血管に連なる口に相当)
- ・中国、韓国との物流は「夜間トラック」同然(上海高速RORO船、釜山フェリー)
- ・中国(民营)企業の「走出去」(海外進出)
- ・九大芸術工学部(旧九州芸工大)の存在、著名歌手輩出の土壌とネット配信時代の到来
- ・新たな時代へ向かうアジア&中国との共生的発展を担う内外人財開発需要

.....

「中国沿海部や韓国を九州と見立てれば、いろんなオプションあり」(ダイハツ工業社長)

「三大都市圏を貫き、北部九州から中国・韓国へ連なる国土軸」というパラダイムを!

<上記は個人としての見解、意見です>

第一回専門委員会コメント（２）

福岡市経済振興局理事 進藤千尋

1. 「リスクファクターは何か」について

（リスクファクターは、特に中国に関してだと思いますが）

- ・ 地域間格差や都市と農村の格差、所得格差、不良債権、腐敗等々、よく指摘されるいろいろな問題を抱えています、中国の将来がどうなるかは、わかりません。
- ・ わかることは、私を知る限り、80年代以降、識者と言われる人が予測した中国の将来がひとつも当たっていないのでは、ということだけです。
- ・ 中国指導部は、問題は百も承知で、比較的うまくマクロコントロールをしているということではないでしょうか。

2. 「アジアの範囲をどこまでと考えるか」について

- ・ 通常南アジアと称されるインドの台頭、及びロシア沿岸部を念頭に置いた議論だと思いますが、本委員会では国土形成計画との絡みで考える必要があります。
- ・ インドが、IT分野やインフラ整備を中心としたビジネスチャンスという意味で、我が国にとって重要な国になることに異論はありません。
- ・ しかし、国土形成計画との絡み（私は、“海を越えた国土軸”をどう捉えるかという観点から見るべきと思っています）で考えると、インドまで含めるとかえって焦点が拡散し、ぼやけるのではないかと考えます。
- ・ インドがあるからと南アジアも含めれば、パキスタン、バングラディシュ等も入ってきます。
- ・ インドの重要性は認識しつつも、本委員会では、やはりシンガポール以北のアジアを念頭に議論すべきではないでしょうか。

< 上記は個人としての見解、意見です >